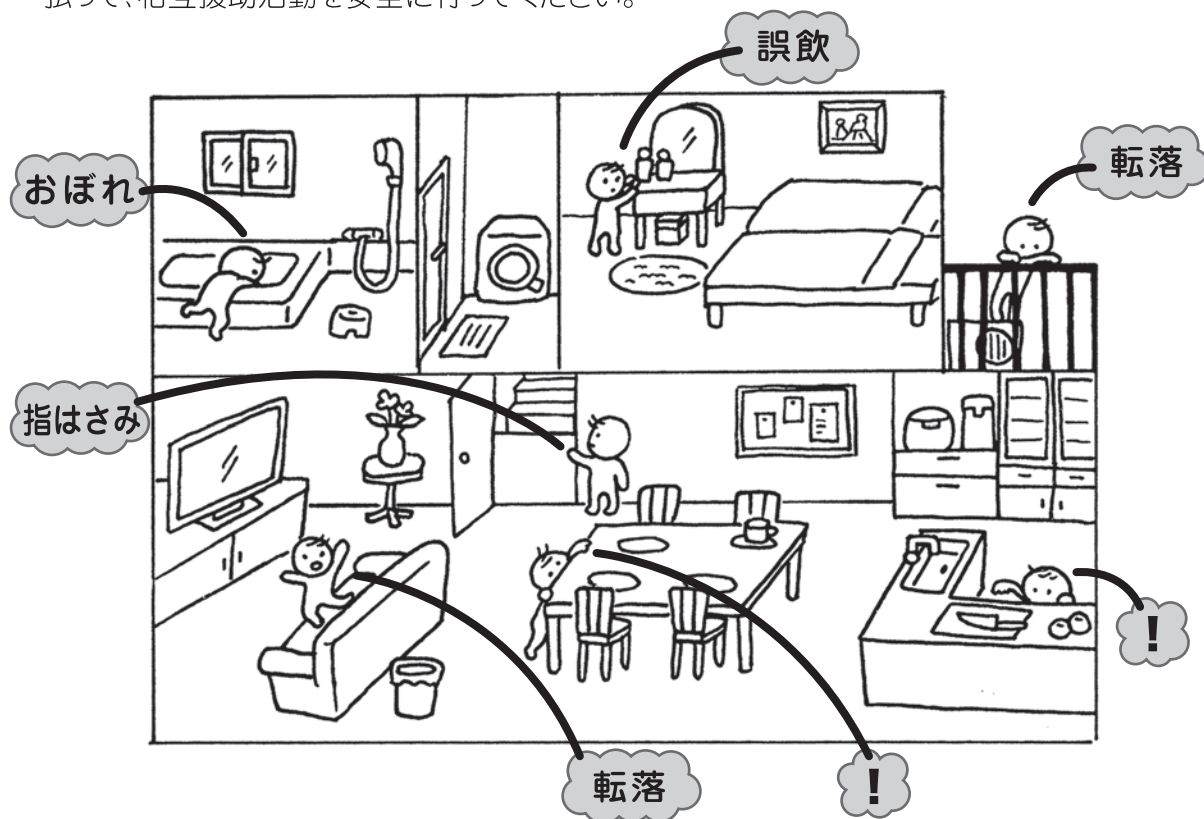


活動にあたって

《安全への対応》

子どもの事故は、ちょっとした気配りで防ぐことができます。会員ひとりひとりが十分注意を払って、相互援助活動を安全に行ってください。



❗ 子どもから目を離さないで!

子どもは大人が考えていないような行動をとることがあります。決して目を離さないようにしましょう。

❗ 子どもの目線でもう一度確認を!

子どもの目の届くところに危険なものやたばこ、ポットなどを置いていませんか。また、誤飲につながる小物や薬品なども置いていませんか。子どもの目線に立ってもう一度確認してみましょう。

❗ 家の中で事故の起こりやすいところはないですか?

事故が起こらないように常に安全に気を配り、階段、ドア、風呂場、台所、ベランダなど、活動前は必ず安全チェックリストでまわりの環境を確認しましょう。

参考資料①

子どもの発達と事故例

子どもは成長とともに好奇心が増し、行動が活発になります。しかし、危険性を予測できず、思わぬ事故をまねきます。

《 0～8か月頃：ねんね、寝返り、お座りの時期 》

- うつぶせの状態ではかせていて息をつまらせた。
- ソファに寝かせていたら転落した。

《 9～11か月頃：はいはい、つかまり立ちの時期 》

- 水が入った浴槽に転落した。
- つかまり立ちから転び、テーブルの角に頭をぶつけた。
- おもちゃ・たばこ・薬などを誤って飲みこんだ。

《 1～2歳頃：頻繁に歩き回り、走ったり、よじ登ったりする時期 》

- ベランダで階下をのぞきこみ転落した。
- なべに手をかけてやけどした。

《 3～5歳頃：跳んだり、走ったりする時期 》

- 三輪車に乗っていて転んだ。
- 道路に飛び出して車と接触した。

※月齢とその時期の特徴はあくまでも目安です。

子どもの事故・死亡原因の 上位は不慮の事故

事故は大人が少しの気配りをするだけで未然に防げます。「安全な環境づくり」を心がけ、援助活動中は「目を離さない」ようにしましょう。

注意すべき 5つのPoint

- 窒息
- 誤飲
- 転落・転倒
- おぼれ
- やけど